

「なぜ美しいと思うのか？」

2013 年 6 月 9 日(日)

会場：浜離宮恩賜庭園 芳梅亭

参加：21 名

司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・新規 2 名を含む総勢 21 名の参加者で「美しさ」について考え、美しさはその対象にあるのか、それとも心の中にあるのか、について対話した。

2. 対話：

(0) テーマについて

- ・せっかくの和の雰囲気の中なので、今日は「美しさ」をテーマに選定した。私達が「美しい」と感じるモノには、風景、絵画、数式、人の所作、等、様々なモノがあるが、具体物から抽出できる概念としての美しさについて考えてみたい。

(1) 「美しさ」と「雰囲気」の関係は？

- ・H さん：美しさと雰囲気の間に関係があるかどうか気になる。例えば、美しさそのものは、その絵画を展示する美術館の醸し出す雰囲気とどこかで通じているような気がするかどうか。
- ・「雰囲気そのものが美しい」ということは考えたことがない。
- ・「雰囲気」なのではなく、あくまでも美術館のステンドグラス越しの光が美しいなど、視覚的な光景が美しいと感じる要因ではないか。

(2) 誰もが美しいと感じるモノを指定できるか？

- ・司会から、「今日は和の雰囲気の漂う芳梅亭で例会をやっており、この庭からは、美しい風景や植物等が見えなくて残念だが、誰もが美しいと感じる代表的なモノを指定してみて、それを題材に対話を進めてみたいが、どうか」と提起すると、次のような意見が出た。
- ・Y さん：「そもそもそんな誰もが納得する『美しさ』があるのか？ というより、『美しさ』があたかも対象にあるように話が進んでいるが本当にそうか？」

(3) 美しさにはどういう種類があるのか？

- ・美しさには、「ゆるむ」（＝弛緩）系と「高揚する」（＝緊張）系があるのではないか？
- ・生存に直接関係する欲求を抑えることができ初めて、本当の美が理解できるのではないか？

(4) 美しさはどこにあるのか？

- ・先の問題提起を踏まえ、私達が感じている「美しさ」は、その対象にあるのか、または私達の心の中にあるのか、どちらだろうか？という論点で対話を進めた。
- ・Y さん：「あえて、『私達が感じる全ての美しさは心の中にある』と言い切ってみたい」
- ・I さん：「どんな対象であれ、『それを感じている美しさは心の中にしかない』と思う」
- ・Om さん：「そう言ってしまうと、『どんなモノにも美しさはある』となってしまうので、違和感がある。例えば、『ゴミ捨て場に捨てられた弁当』にも美しさはあると言えるのか？」
- ・H さん：「感じているのは心の中だが、対象にも何らかの美しさを誘発するプラスアルファの性質があるのではないか。例えば、弁当の例で言えば、均整が取れている、色彩のバランスが良いなどがあるのではないか？」
- ・そのプラスアルファの性質についていよいよ対話を深めようというところで、時間切れとなった。

3. まとめ：

- ・主論点の「美しさはどこにあるのか？」は、個人的にも興味があった論点であり、対話を愉しむことができた。核心部分である、対象にあるかもしれない「プラスアルファの性質」については、もう少し突っ込んだ対話で掘り下げたかったところであるが、時間切れとなり残念であった。次の機会を待ちたい。
- ・普段は青山界隈のカフェで行っている例会だが、今回は気分を変え、浜離宮庭園内の芳梅亭で実施した。当日は例会前 30 分間に、参加者のご協力を得てお茶を立てて頂き、和菓子と一緒にまったりしたひと時を過ごした。その効果もあってか、例会では、普段よりも一段とゆったりと考え、対話をする事ができたと思う。
- ・日テレの記者の方から“NexT”という番組のためこの例会へ取材の申し込みがあったが、「芳梅亭内での撮影は不可」という浜離宮庭園の規則を鑑みて断念。代わりに、記者の方は参加者として対話に参加された。

以上